平成 20 年（2008 年）3 月 10 日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
SINCE 1990
No.103
廃棄物学会

学会の将来構想について

法人化・将来構想検討会会長　澤地　實

目指すべき将来像

学会の使命：

- 物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化を進め、学術的立場から社会の先導的役割を担い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。

学会の特徴：

① 学術的な立場から社会に向けて積極的に情報発信・問題提起・提言を行い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。
② 社会との密接なコミュニケーションに基づき、多様な主体の参加と幅広い学術的基盤の上に実学を指向する総合学会として社会に貢献します。
③ 国際的な学術的連携の中で、学術的コミュニティー間のパートナーシップを構築し、相互の学問の発展を通して循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。

１．とりまとめの経緯

平成 2 年（1990 年）の学会設立以来 20 年近く経過し、順調に発展してきた学会も、ここ数年は、会員数や予算が漸減傾向にある。また、廃棄物問題も当初の廃棄物の適正な扱いから循環型社会形成へと主軸が移ってきている。このような状況を受け、今後の学会の発展を期すため法人化という変革点を機に、学会の将来構想を取りまとめることとした。

将来構想については、一昨年来、将来構想検討会のシニア世代のメンバーで検討を進めてきた。しかし学会の将来を担う中堅若手会員が、「こうしたい学会」として将来構想を取りまとめるべきと集約され、若手世代で構成される幹事会を昨年 4 月設立して、その検討を進めた。

幹事会では、他人事ではなく自分たちが創り上げる「こうしたい学会」の将来像をすべての会員が理解・納得し、参加して今後の学会を創り上げる起点となる内容を追求した。

幹事会の将来像の当初案は、昨秋のつくばの研究発表会におけるアンケート結果を踏まえて修正され、上記が検討会の将来像成案として理事会に報告された。

２．将来構想の構成

将来構想は、

（ａ）目指すべき将来像（学会の使命、特徴、解説）
（ｂ）そこに至る筋道

で構成している。直截的な将来像だけでなく、今後検討すべき学会の直面する諸課題について、取りまとめておく必要がある。

（ａ）将来像

学会の使命を明確にするとともに、積極的な情報発信・問題提起・提言、実学指向の総合学会、国際貢献といった三つの学会の特徴をまとめた。さらにこれらの特徴の内容について解説を付記した。

（ｂ）そこに至る筋道

将来像は、高く掲げた目標であり、そこにどう到達するかが肝心である。

そのため、そこに至る筋道（具体案）をまとめた。もちろん、筋道はこれらに限定されるわけではなく、実践されて初めて意味を持つ。

これらの実践は、主に今後の学会を担う中堅若手層の課題となるが、経験豊富なシニア層も重要な担い手と考えた。

個別の具体的活動は、来期以降の法人化と並行して体制を整え、必要に応じて新たな組み立てを行うことを想定している。

３．今後の対応

将来構想は、そこに向け実践されて初めて意味を持つ性格のものである。検討会の上記成案は、今後理事会で討議されるが、会員の皆様の活発な意見をいただき、将来構想の提示が、学会発展の起点となることを強く願っている。

廃棄物学会1年の歩み

平成 19 年（2007 年）の活動状況

2007 年は、2 月に IPCC（気候変動に関する政府間パネル）による第 4 次評価報告書（第一作業部会）が公表され、地球温暖化の影響が顕在化し始めており、人為的な温室効果ガスの排出の継続は、危機的状況を生むことが報告された。また、10 月には IPCC はアル・ゴア氏と共にノーベル平和賞を授与された。地球温暖化は差し迫った環境問題であることが世界的に認識され、2008 年に始まる温室効果ガス排出量削減の約束期間に向けて、我が国においても地球温暖化対策が本格化し始めた。廃棄物／循環型社会分野では、特に、再生可能エネルギーや JI（共同実施）／CDM（クリーン開発メカニズム）などでのいっそうの貢献が求められるだろう。

廃棄物学会では、5 月に総会・研究討論会が川崎で開催された。総会では法人化・将来構想検討会から、平成 20 年度 12 月以降に法人化の手続きが開始されること、若手会員主体で将来構想の検討を始めたこと、学会名称の変更について会員に意見を募ることが報告された。また、同 5 月には廃棄物学会メールニュースの配信が開始され、ホームページと併せて迅速な会員への情報伝達が可能となった。9 月に学会ニュースは 100 号となり、歴代の編集担当者を招き、記念の座談会を開催して同号に掲載した。11 月には第 3 回アジア太平洋廃棄物専門家会議が岡山で開催された。今回は、廃棄物関連団体から構成される顧問会（廃棄物学会会長が座長：事務局活動は国際委員会）が設置され、SWAPI（Society of Solid Waste Management Experts in Asia & Pacific Islands）の国内支援体制が整えられた。同月には、つくば市で第 18 回の研究発表会が開催された。最終日を夕方までのフルセッションとし、またポスター数を増やし、さらに発表論文の Web での全文公開を行い、参加者数減に抗うべく活性化を図った。

また、下表に示すように支部活動においてもセミナー、講演会、見学会などが活発に行われた。平成 20 年度は法人化に向けて、未来の学会の姿を示す正念場の年である。会員各位のいっそうのご協力をお願い申し上げたい。

（企画運営委員会広報部会　山田正人）

平成 19 年（2007 年）の活動状況

月日	行事	開催場所	テーマ・内容
平成 19 年 1 月 26 日	東海・北陸支部 見学会	名古屋市	「大都市圏『名古屋市』における処分場の現況と課題」：名古屋市大江破砕工場・名古屋市第一処分場・愛知県臨海環境整備センター
3 月 6 日	企画運営委員会 平成 18 年度市民と学生のためのセミナー	東京都 渋谷区	「今、3R をどう伝え、どう実現するか！」～地域、学校、事業者の連携・協働による環境教育の可能性～
3 月 17 日	関西支部 第 4 回廃棄物法制度に関するセミナー	京都市	「循環型社会と廃棄物・リサイクル対策」
3 月 24 日	東海・北陸支部 平成 18 年度総会・市民フォーラム	名古屋市	平成 18 年度事業報告・決算報告 平成 19 年度事業計画・予算案 市民フォーラム：「いま“環境教育”について考える」
5 月 2 日～ 5 月 4 日	韓国廃棄物学会 2007 年度春季学術発表会 （国際委員会）	韓国 釜山市	第 12 回日韓共同国際セッション： 日韓特別シンポジウム「クリーンエネルギー確保のためのバイオマスと廃棄物の利用」 ポスターセッション
5 月 24 日	平成 19 年度総会、平成 18 年度廃棄物学会賞表彰式	川崎市	平成 18 年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成 19 年度事業計画（案）・収支予算（案）
5 月 24 日～ 25 日	平成 19 年度研究討論会	川崎市	「再生製品の建設資材リサイクルと環境安全性を考える」 「日本の循環型社会構築を総点検する」 「植物由来プラスチックの将来性」 「国立公園における廃棄物問題：山岳系自然地域が抱える問題」 「循環型共生社会における地域計画のあり方：交付金制度を活用した実施例を踏まえて」

月日	行事	開催場所	テーマ・内容
5 月 31 日	廃棄物学会メールニュース配信開始 （広報部会）		
6 月 8 日	廃棄物試験・検査法部会 セミナー	東京都 文京区	「廃棄物の地盤工学的利用と環境安全性評価」
6 月 13 日～ 6 月 14 日	中国四国支部 総会・講演会・見学会	岡山市 倉敷市	平成 18 年度事業報告・収支決算報告・会計監査報告 平成 19 年度事業計画・予算計画 廃棄物学会・日本水環境学会中国四国支部合同講演会： 「食飼料の循環と水域富栄養化を巡る状況の変化について」 「廃棄物バイオマスのリサイクル－廃食用油のリサイクルに関する技術的考察」 見学会：（財）岡山県環境保全事業団水島処分場・水島クリーンセンター・倉敷市資源循環型廃棄物処理施設・木質炭化施設
6 月 16 日	九州支部 総会・講演会	福岡市	平成 18 年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成 19 年度活動計画案・収支予算案 講演会：「身土不二のすすめ」
7 月 12 日	東北支部 総会・講演会	仙台市	平成 18 年度事業報告・収支報告 平成 19 年度事業計画・予算案・支部役員改選案 講演会： 「水質汚染と保全技術」 「最終処分場再生活動の環境経済影響評価」 「廃棄物処分場浸出水中の有機化合物の包括的分離分析と分配特性相関」 「管理型産業廃棄物最終処分場からの浸出水の高度処理技術」 「廃棄物最終処分場浸出水からの高濃度塩化物イオン含有排水処理プロセスの開発」
7 月 17 日	北海道支部 施設見学会	鹿追町	鹿追町家畜ふん尿バイオガスプラント
7 月 28 日	関西支部 市民と学生のためのセミナー	大阪市	「農からの発想」と「学校でのごみ減量の取り組み」に学ぶ
8 月 8 日	学会ニュース 100 号記念座談会 （広報部会）	東京都 港区	学会ニュース 100 号は 9 月発行。
11 月 7 日～ 9 日	第 3 回アジア太平洋廃棄物専門家会議 （国際委員会）	岡山市	SWAPI について、公開セミナー、テクニカルツアー
11 月 9 日	北海道支部 見学会・セミナー	室蘭市	見学会：日本環境安全事業（株）北海道事業所 セミナー：「胆振地域の廃棄物の適正処理と有効利用の動向」
11 月 9 日	東海・北陸支部 見学会	名古屋市	名古屋市「五条川工場」・北名古屋衛生組合「鴨田エコパーク」
11 月 19 日～ 11 月 21 日	第 18 回研究発表会	つくば市	研究発表（口頭発表 203 件、ポスター発表 159 件）、特別シンポジウム、日韓廃棄物学会国際シンポジウム、中央環境審議会循環型社会計画部会
11 月 27 日	中国四国支部 セミナー	高知市	「循環型社会を考える」
11 月 29 日	関西支部 総会・技術セミナー・見学会	姫路市 赤穂市	平成 18 年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成 19 年度活動計画案・収支予算案 技術セミナー：「焼却残渣有効利用の新展開に向けて」 見学会：住友大阪セメント（株）赤穂工場

平成 19 年 11 月 29 日

関西支部・技術セミナー・見学会開催報告

平成 19 年 11 月 29 日（木）、姫路市民プラザ・アートホールにて、関西支部総会及び、「焼却残渣有効利用の新展開へ向けて」をテーマに「技術セミナー・見学会」が開催され、86 名が参加した。技術セミナーでは、焼却残渣のスラグ化とその有効利用について、2 名の講師から講演して頂いた。

まず大阪工業大学二村誠二准教授より、「コンクリート骨材に使用者側が求める性能」と題して、骨材の品質に要求される条件、長期保障や強度の面などから溶融スラグの骨材としての利用が進展しない理由や、安定供給の大切さについて講演された。

次に都市リサイクル工学研究所山田優氏（大阪市立大学名誉教授）より、「アスファルト混合物における使用骨材の現状と溶融スラグの適用性」と題して、アスファルト混合物とコンクリートとの違いや、現在用いられている各種細骨材との比較を通して、溶融スラグを有効利用するための条件や提案を行って頂いた。

関西支部総会終了後、大型バスにて住友大阪セメント株式会社赤穂工場に移動し、セメント生産工程の見学を行った。

本工場では原料及び燃料の一部に産廃物・副産物の使用を進めている。セメント生産量に対するそれらの使用割合は年々増加しており、このことに対応するための品質管理方法についても説明が行われた。

見学終了後の質疑応答では、参加者から活発な質問や意見交換がなされ、今回のテーマに対する関心の高さがうかがえた。　（関西支部　長澤松太郎　記）

【お知らせ】

第 10 期役員選挙を実施中です

廃棄物学会会則及び廃棄物学会役員の選任に関する規程にもとづき、次の日程で廃棄物学会第 10 期役員（理事・監事）選挙を実施中です。

◎投票用紙の発送：平成 20 年 3 月 3 日（月）
◎投票締め切り：平成 20 年 3 月 25 日（火）（必着）
◎選挙結果の承認（新役員の決定）：平成 20 年度総会

※選挙権を有する者は、平成 19 年 9 月 30 日までに平成 19 年度会費を納入した正会員です。

会　員　状　況	H20.2.28 現在 （　）内は、H19.4.1 以降の増減
正 会 員	3,106（-94）
学生会員	334（+36）
外国人会員（DM）	25　（+1）
登録団体市民会員	6　（+2）
公益会員	105　（-1）
賛助会員	149　（-2）
計	3,725（-58）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

☆☆事務局だより☆☆

今年は、去年の暖冬と比べると雪の多い冬でした。気候の大きなうねりを感じます。今の時期、学会は新年度の準備に追われています。会費収入が逼迫している状況で、各委員会では事業計画の策定に知恵を絞っています。来年度は学会役員の改選の年です。そして念願の法人化に向かって、いろいろな方が汗をかいています。会議も頻繁に行われ、事務局には多くの人が出入りし、一番忙しい時期であります。

学会の外に目を向けますと、洞爺湖サミットが 7 月に開催されます。「21 世紀環境立国戦略」を策定した我が国にとって大きなアピールの場です。8 月には北京オリンピックが開催され、環境への取組みも注目されています。そして、「中央環境審議会循環型社会計画部会」では、つくばの研究発表会等でも開催された基本計画進捗の点検を踏まえて、来年度に基本計画を見直す予定です。

廃棄物学会が法人化を契機に、大きく変わろうとしている事は、世の中のこうした大きなうねりとも関係していることを感じます。広報部会では、まずは会員の方々に、こうした学会の動きを的確に伝えるとともに、次のステップにおける広報のあり方を模索しています。機会を見て、会員皆様のご意見も、ぜひいただきたいと思います。

（片柳健一　記）

＝　平成 20 年度会費納入のお願い　＝

3 月末日に郵便振込用紙をお送りしますので、5 月末日までに会費をご納入下さい。

次号（学会ニュース No.104）は 5 月 7 日発行予定です。

※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。

廃棄物学会ニュース No.103　平成 20 年 3 月 10 日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています